

# English Garden 第38話

"Today is a gift."  
Nancy Wood

「今日という日は贈りもの」  
ナンシー・ウッド

前回の "Spirit Walker" の作者であるナンシー・ウッドの別の作品 "Dancing Moons" の日本語訳が出ているのを見つけましたので、今回はそのご紹介をします。（「今日という日は贈りもの」心が生まれ変わる12のアプローチ」井上篤夫訳、講談社、1997年）この詩集でナンシーは、先住アメリカ人であるプエブロ・インディアンに伝わる月についての神話を通して、彼らの心を代弁してうたっています。日本語版のタイトルは、12月の章の前書きにあたる「瞑想」の部分からとっています。



"Today is a gift. Do not waste a single moment."  
「今日という日は贈りもの。一瞬も無駄にしてはならない」

この神話によりますと、「月」は父なる大空と母なる大地とのあいだに生まれた子どもです。月が彼方のたくさんの星のあいだでだんだん大きくなると、太陽の犬たち (Sun Dogs: 幻日) が月にかみついて食べ、三日月の形にしてしまいました。ぼろぼろの月はそれでも空で明るく輝き続けました。そのとき、2本足と4本足の創造物の導き手だった歩く精 (Spirit Walker) は心を痛め、すべての創造物に、広場で輪になって踊るよう命じます。そこで、男はシカと、女はトウモロコシと、子どもはカメと踊りました。すると月はだんだん大きくなって、ついにまんまるになりました。

これを繰り返しているうちに、創造物は月の満ち欠けになれてきて、みんなで集まってその時どきの月に名前をつけることになりました。それが次のような12カ月の名前として今でも残っています。（井上篤夫氏の訳による）

January	Man Moon (おとこ月) 月はsolitude (孤独) という道を通る。(以下同じ)
February	Wind Big Moon (風が大きい月) introspection (内省) という道。
March	Ash Moon (灰の月) understanding (理解) という道。
April	Planting Moon (植える月) regeneration (再生) という道。
May	Corn Planting Moon (トウモロコシを植える月) acceptance (受容) という道。
June	Corn Tassel Coming Out Moon (コーンの穂が出る月) listening という道。
July	Sun House Moon (太陽の家の月) passion (情熱) という道。
August	Lake Moon (湖の月) change (変化) という道。
September	Corn Ripe Moon (コーンの実る月) awareness (意識) という道。
October	Leaves Falling Moon (葉の落ちる月) respect (尊敬) という道。
November	Corn Depositing Moon (コーンを蓄える月) mortality (生あるものの運命、死) という道。
December	Night Fire Moon (夜の火の月) suffering (苦しみ) という道。

アメリカ大陸に2万年以上にわたって住んでいた先住民のくびとの生活は、自然に密着した日常の経験の積み重ねであり、宗教もその中から生まれました。まず神秘を感じるのは太陽であり、月であり、特に月の満ち欠けは不思議なものと映ったのでしょう。そして、自然のサイクルに気づいたとき、月の12の通り道という考えが生まれ、それに精神的な意味づけをしたものと思われます。